

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境情報活用小委員会	主 査 名：横尾昇剛 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：秋元孝之 主 査 名：中島裕輔
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>気候変動問題の顕在化、各種災害の頻発化に対応し、建築・都市における対策が求められており、環境に関する情報及び防災に関する情報を包括的に整理、活用することが重要である。特に建築プロジェクトの企画段階、設計の初期段階においてデジタル化された情報やシミュレーション情報を反映した建築形態、空間構成の創出が試行されつつあり、そうした取り組みに関する知見の整理、議論を行い、当該分野の新たな研究課題の抽出と重要性を検討することを目的とする。</p> <p>初年度：各分野の環境情報、防災情報を活用に関する情報整理 2 年度：建築企画、建築設計、建築設計教育に適応した情報整理を行うとともに、Web 上に成果を発信する。 3 年度：環境・防災情報の活用方策についての報告書作成及びシンポジウム実施</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：横尾昇剛(宇都宮大学) 幹事：中島 裕輔(工学院大学)、山田 貴宏(バイオフォルム環境デザイン室) 委員：岩田三千子(摂南大学)、木村 謙(エーアンドエー)、高口洋人(早稲田大学)、土田義郎(金沢工業大学)、藤原紀沙(宇都宮大学)、堀 英祐(近畿大学)、吉村靖孝(早稲田大学)、円井基史(金沢工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境・防災情報活用に関する研究事例および社会実装事例を共有した 2. 環境・防災情報活用に関する事例の類型化の検討を行なった。
委員会活動の問題点・課題	1. 本年度は新型コロナ等の影響もあり、予定していた現地視察が十分に実施できず、次年度体制を整え実施予定である

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	(C)	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会では、建物及び建物内外に関わる環境・防災情報全般を網羅的にレビューし、類型化を進めている。企画段階、設計段階、運用段階において、建物に関する各ステークホルダー間のコミュニケーションに活用出来る環境・防災情報のフォーマット、IoT化に対応した環境設計、建物運用の方法論をまとめ、設計ツールなどへの反映方策の検討を継続している。</p> <p>下記の項目について整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域再創生と環境情報 ・ 建物のIoT化動向 建物事例 ・ BIMと環境情報、VRと環境情報 ・ 環境負荷情報としての建設エネルギー・建設CO2 ・ 都市環境性能評価のために必要な情報 ・ 都市の屋外環境の性能と利活用 ・ 環境と防災を考慮した評価項目 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。